



西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

NO. 1

卒業証書授与式を挙りました

第43号の式辞、44号の送辞につづき、卒業式での答辞を紹介したいと思います。これは卒業生の代表2名が立派に読み上げました。当日は3年生の保護者と教職員しか聞いていません。在校生へのメッセージも含まれていますので、しっかりと読んでほしいと思います。

答 辞

春が来る度に、思い出す情景があります。桜が出迎えてくれた校門。大きすぎる制服。不安で早くなる鼓動。見慣れない顔の多さに身体が強ばった3年前のあの日。たくさんの期待と祝福の中で始まった、私たちの中学校生活は、まだ真っ白なノートのようにでした。

入学式で僕たちは、「希望を胸に大きく成長する」と誓いました。希望とは、何か。その答えは、思いつく中にある。

1年生。覚えることが多くて、大変でした。1日の過ごし方や守るべきルールの数々、小学校にはなかった授業、そして、職員室の入り方まで、何もかもが初めての日々。「これを毎日していくことになるのか」と、嘔然としました。家に帰ったときにはもうへとへとで、慣れるまではそんな日々が続きました。

そんな中、迎えた林間学校。班で巡るオリエンテーリングの準備や、クラスで行うスタンプを成功させるために、たくさん話をしました。協力する中で、気付いたこと。それは、みんな同じ気持ちなのだということ。中学校生活の中で、不安なこともあれば、ワクワクすることもある。それは自分だけではないのだ。そう気付いたとき、私たちの距離は、ぐっと近くなりました。

あつという間に過ぎた1年生の日々。最初は小学生気分が抜けなくて、叱られることもありました。段々と身についた、時間を守ること、挨拶をすること、みんなと協力して生活すること。今では当たり前だと感じる習慣。それらを、学校生活

の中で、先生や先輩方から教わりました。

2年生。「甘い自分」からの卒業。先輩としての「自覚と責任」。求められるのは、形の掴めないものばかり。お世話になった先生との別れもあり、焦りが募りました。

職業体験、「トライやるウィーク」。いつか来る「社会に出る日」を想像するきっかけ。貴重な機会であり、校外での活動であり、私たちはとても楽しみにしていました。しかし、自覚と準備が足りず、初日から失敗の連続。事業所の方は優しく許してくださったけれど、「中学生だから仕方ない」という言葉が、響きました。自分の将来に向き合った1週間。「自分は未熟だ」と感じると共に、最後の日に味わった達成感はまた格別なものでした。まだまだ、自分たちは成長しなければならない。この思いがその後の学校生活に生かされたと、今でははっきり、そう感じます。

2年生の1年間は、様々な感情であふれた日々でした。後輩に頼られる喜び。先輩への憧れ。体育大会では、クラスや学年が一体になる気持ちの高ぶりを感じ、合唱コンクールでは、喜びや悔しさで涙を流した。校外学習で神戸を巡ったときは、自分たちの成長を確かに感じ、1つ行事を乗り越える度に、次への期待が高まった。

「3年生になったら、もっとすごいことがしたい」「私たちになら、きっとできる」

頭の片隅には、そんな期待があり、疑いもしていませんでした。

「いのちは 自分一人では 完結できないように作られているらしい」

教科書の表紙の裏側。その一編の詩に私たちが触れたのは、6月になってからでした。

行く先が見えないことは、これほど不安で怖いのか……。友だちとの、今までとはまるで違う距離感。慣れない7時間授業。毎月テストがやってくる。修学旅行の中止、総合体育大会の中止、コンクールの中止、とにかく進んではみるものの、受け止めなくてはいけない現実が増えていく。い

つまで続くのか分からない状況が、ぬかるみのように、私たちの足を重くしました。

そんな日々は、私たちに何をもたらしたのでしょうか。確かに、何もかもが例年と大きく違う、暗中模索の日々でした。けれど、小さな星の灯りは、暗闇でこそ輝きを放つ。私たちの胸には、いつも希望がありました。私たちには一緒に歩み支えてくれる仲間が、そして、私たちが持つ力を発揮できるように、背中を押してくれる人がたくさんいました。

体育大会の代わりに行われた、演技交流会。クラス毎に踊ったダンスは、振り付けも、衣装も、全て自分たちで考えました。男子も女子も関係なく、みんなで1つのものを作り上げる、初めての取り組み。とても大変でした。そしてその分、全校生の前で踊ったときに感じた、心が高ぶる感覚は久しぶりで、心地よかったです。自分たちの成長をみんなに見てもらえて、誇らしく思いました。あとで写真を見返すと、自分が本当に楽しそうに笑っていると気づき、心が満たされました。

僕たちは、歌うことが好きです。中学校時代の思い出は？と聞かれると、まず浮かぶのは合唱の風景。入学式で先輩の校歌を聴いたときから、学校での歌はどれも特別なものでした。その中で、想いを注いできた合唱コンクール。難しい曲への挑戦は、憧れ。2年生のときには、先輩の歌声を聴き、「来年は自分たちの番だ」と、心を燃やした。

そして今年。西中学校の歴史に加わった、新たな1ページ。校庭での全校合唱、『ふるさと』

あの日、自分たちの前に広がったのは、誰も見たことがない光景。全校生徒の歌声が1つになった瞬間、実感したのは、たくさんの支えの中で生きている自分でした。

普段の学校生活も、どんな行事も、応援される集団を目指し取り組んできた。困難を前にできることは、立ち止まらないことだけだ。そう信じて進んできた。だからこそ、私たちは、みんなでここに立つことができている。

あの日聴いた歌は、その全ての証です。皆で見た光景は、私たちの心の情景として刻まれます。「西中学校に通えて本当に良かった」今、改めてそう感じます。

かけがえのない時間、部活動。

はじめから、大きな目的や、強い意志があったわけではありません。入部したころ求めていたのは、楽しい時間を過ごすことでした。考え方が大きく変わったのは、自分が先輩になったとき。1

つの勝利を掴むために、1度きりの本番を成功させるために、何が必要なのか。真剣に考えるようになりました。部員1人ひとりの責任の重さ。自分より上手くなっていく、同級生や後輩への焦り。初めて経験する重圧に、部活が苦しいと感じることもありました。けれど、それを乗り越えられたのは、仲間がいたからです。楽しい時だけじゃない。ただの友だちじゃない。ライバルだから、ぶつかりました。だからこそ本音も言えた。最後の日、引退の瞬間「ここが自分の居場所だったんだ」と、感じる事ができた私達は、幸せでした。先輩や顧問の先生、大会など学校外で出会う方に対する礼儀。様々な考えを持つチームメイトとの協調性。一度きりの本番に向けて、本気で向かっていくこと。部活動で学んだ全てのことが、これからの私たちを支えてくれます。最後まで付いてくれた後輩達、いつも熱心に指導してくださった先生方。ありがとうございました。そして、最後まで一緒に頑張った同級生のみんな。今はただ、感謝で一杯です。ありがとう。

先生方、職員の皆様、大変お世話になりました。僕たちは3年間の中で、多くの先生方と出会い、そして、多くの別れを経験しました。戸惑いや、不安もありましたが、その分、たくさんの先生方に想っていただいた学年だと感じます。朝は、元気な挨拶で迎えてくださり、放課後は、「また明日」と声をかけてくださる。どんな時も僕たちの事を第一に考えて、まだ、未熟な僕たちに寄り添ってくださりました。先生方は、僕たちが思うよりずっと、自分たちの事を考えてくれている。それに気付かず、違う方向を向いてしまうこともありました。そんな時も、見放すことなく、たくさん話し、叱り、涙を流して、僕たちの心に火を点けてくれました。

少し内気で、心配ばかりかけていた僕達。先生方には、たくさん背中を押していただきました。これからは、自分たちで正しい方へ進まなければならない。分かっているけど、不安です。けれど、勇気をもって、希望を胸に、進んでいく僕たちを、見守ってください。今まで、本当にありがとうございました。

そして、今年、私たちと共に西中学校を卒業される大西校長先生。朝早くから校門に立ち、私たち1人1人に、暖かく声をかけてくださいました。

大西校長先生にとって、最後の卒業生となった僕たちは、自慢の生徒であれたのでしょうか。校長先生と過ごせた3年間。最後まで見守っていただ

いたことは、決して忘れません。今まで、ありがとうございました。

ここまで支えてくれた家族に、伝えたいことがあります。

生まれたときから、ずっと一緒に過ごしてきて、そばにいたことが当たり前。中学生になってからは、学校や塾、習い事が忙しくなってきた、家にいる時間よりも、それ以外の時間が、随分長くなってきたなと感じます。

思春期の私たちは、素直になれず、つい反発してしまうこともありました。それでも苦しいとき、思うようにいかないとき、側にいてくれたから、安心できました。

家族がいるから今の私たちがある。どんなに仕事で疲れていても、話を聞いてくれる。友だちとの関係や、進路で迷った時は、一緒に悩んでアドバイスをくれる。いつもは照れくさくていえないけれど、この場を借りて伝えます。

本当にありがとうございました。

まだ、1人ではできないことがたくさんあると思います。心配をかけることが、あると思います。その時も暖かく見守っててください。これからも、ずっとよろしくお願いします。

卒業を前にして、思い出す情景があります。

それは、3年生の皆と過ごした、毎日のありふれた風景。教室であいさつをかわし、一緒に授業を受けた日々。休み時間には何気ない会話で盛り上がり、放課後は部活に燃える。そして、「また明日」と手を振った帰り道。明日からは、もうやってこない日々。

私たちはこの3年間、皆で同じ方を見て、同じ日々を、一緒に歩んできました。これから行くのは、別々の道。寂しいけれど、きっとその道はつながっている。迷ったときには、この日々を頼りに、進んでいこう。いつかまた、会える日を信じて。

「希望」とは何か。卒業を迎えた今日、僕たちは、もう一度自分に問いかけなければなりません。西中学校の生徒として、僕たちはこれまで、たくさんのことに目を向けてきました。過去にこの世界が歩んできた道、現在の世界で起きていること、そして、自分たちの未来には何が待ち受けているのか。

西中学校での日々が教えてくれた。これから生きる僕たちこそが、希望なのだ。

私たち卒業生一同は、西中学校での日々を糧に、新しい未来を歩んでいくとここに誓います。



ホームページを日々更新中！！